

若手技術職員アンケート結果

【若手技術職員が感じている京都府技術職の特徴】

- 南北に長く、様々な地域がある京都府の特性を生かし、幅広い経験ができる。それぞれの地域に特色があり、新規事業も多い。
- 歴史的な施設や文化財などに技術職として直接関わることができる。
- 地域に直接関わる仕事が多く、地域に役立っていることが実感できる。
- 府外出身者も多く、働きやすい。



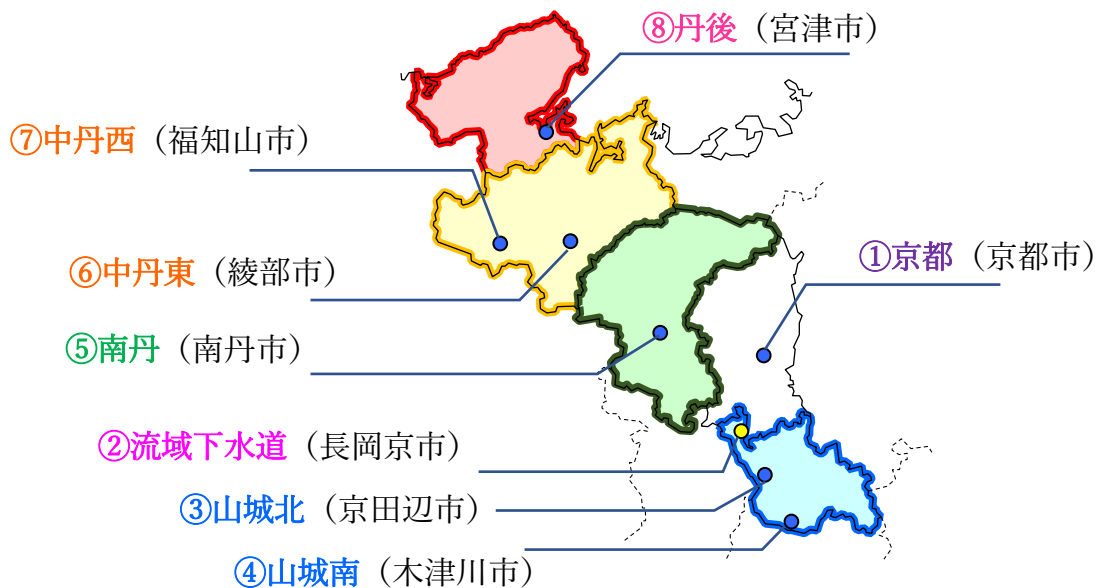
○舞鶴国際ふ頭Ⅱ期整備

Ⅱ期整備では、府が護岸整備及びふ頭用地等の埋立造成を行うのに併せて、国により、岸壁を延長する第2バースの整備が行われます。



○鴨川

概ね30年に1回起こり得る降雨による洪水を安全に流下させるための河川整備を実施しており、現在、平成25年台風第18号により越水した下流区間の河川改修を実施しています。





○宇津根橋

新しい宇津根橋は道路を約5mから11mに拡幅し、歩道を設置し、安全な通行空間を確保しています。

また、免震支承を採用し、地震時の揺れに伴う力を各橋脚に分散して減衰させる構造としており、大地震に強い橋となっています。

【京都府技術職員の志望理由】

- 京都府の伝統的な街並みに関わりながら働きたかったから。(R5年度採用・建築)
- 京都府は南北に長く、様々な環境で仕事をするができるため、多くの経験を積み、多くの知識を得ることができると考えた。(R5年度採用・土木)
- 歴史がある京都府の建築物に携わっていきたいから。(R2年度採用・建築)



○いろは呑龍トンネル

主な施設としては、雨水を貯留し、流す幹線管渠（呑流トンネル）と雨水を河川に放流するポンプ場（呑龍ポンプ場）で構成する。

近年の都市型集中豪雨に対し、桂川右岸地域の京都市・向日市・長岡京市において、これまで多発していた浸水被害を防止・軽減するために計画された、京都府が実施する流域下水道です。

トンネルの全体計画延長は「北幹線工区」と「南幹線工区」とで合計約9.2kmで水路から水が溢れる前に、各水路沿いに設置された流入口から、地下のトンネル内に雨水を取り込みます。取り込まれた雨水は、下流部の洛西浄化センターまで流下し、ポンプ場から桂川に排水されるので、継続的な大雨に対しても威力が発揮されるように計画されています。



○文化庁

築 90 年を超える旧京都府警察本部本館を全面改修するとともに、歴史的景観を形成してきた外観意匠の価値が損なわれない耐震補強計画とし、増築した新行政棟では市の景観規制の特例認定を取得するなど、創意工夫により庁舎機能の確保と良好な景観形成を実現しています。

【入庁後に身についたスキル】

- 早い段階で自分が主担当の業務を任されたことによる責任感と、様々な業種の方と話すことでコミュニケーション力が身についたと思う。(R4年度採用・建築)
- 実際に現場でも実務をするので、本だけの知識で終わらずに経験として身につけていると感じています。(R2年度採用・建築)

【京都府職員としてやりがいや魅力を感じる場所】

- 1年目から大きな事業に携わることができ、工事管理以外にも様々なことを経験できた。(H31年度採用・土木)
- 京都府には、商工業が発達している中心市街地である地域や、歴史や文化が集まった地域、海や山、田畑などの自然が感じられる地域など、様々な地域が存在しているため、土木技術者として様々な経験ができるのが京都府の魅力です。(R5年度採用・土木)

○上津屋橋（流れ橋）

出水時には上部工（橋板）が流される仕組みですが、復旧費用及び回収・架設手間を軽減する手法として、桁木に横桁及びプレース材を設置し、剛性を上げて上部工が一体化して流れるようにユニット化しています。





○山陰近畿自動車道

鳥取県鳥取市から兵庫県豊岡市を經由し、京都府宮津市を繋ぐ日本海側国土軸を形成する総延長約 120km の地域高規格道路です。現在、京丹後大宮 IC より先線の整備に取り組んでいます。



○大野ダム

ダム完成後の最大出水である昭和 47 年 9 月の台風 20 号による出水では、下流の綾部地点でおよそ 78 cm の水位低減効果があるなど、由良川流域の洪水被害の軽減に貢献しています。

凡 例	
——	供用区間
.....	事業中区間
- - - - -	計画区間
○ ○ ○ ○	構想区間